

11月は「乳幼児突然死症候群(SIDS)」の対策強化月間です

私たち小児歯科医も、 普及啓発活動に取り組みましょう！

左のポスターを
クリックしてみてください！

乳幼児突然死症候群

SIDSから 赤ちゃんを 守りましょう

SIDS (Sudden Infant Death Syndrome) = 乳幼児突然死症候群とは
それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく睡眠中に突然死亡する病気です。原因は、まだ
わかっていません。日本では、およそ6,000人〜7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなってい
ると推定されています。生後2か月から6か月間に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。

SIDSから
赤ちゃんを守るための
3つのポイント

1 うつぶせ寝は避ける

うつぶせ寝が、あおむけ寝に比べてSIDSの発症率が高いという研究結果がでています。医学上の理由で必要なとき以外は、赤ちゃんの顔が見えるあおむけに寝かせるようにしましょう。また、赤ちゃんをなるべく一人にしないことや、寝かせ方に対する配慮をすることは、窒息や誤飲、けがなどの事故を未然に防ぐこととなります。

2 たばこはやめる

両親が喫煙する場合、両親が喫煙しない場合よりSIDSの発症率が高くなるというデータがあります。妊婦自身が喫煙することはもちろん、妊婦や乳児のそばでの喫煙も避けるよう、身近な人の協力が必要です。

3 できるだけ母乳で育てる

母乳で育てられている乳児は、人工乳の乳児と比べてSIDSの発症率が低いといわれています。人工乳がSIDSを引き起こすわけではありませんが、できるだけ母乳で育てるようにしましょう。

SIDS対策
強化月間

厚生労働省

- ・ 乳幼児突然死症候群(SIDS)は、それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく眠っている間に突然死亡してしまう病気です。

- ・ 発症は年々減少傾向にはありますが、昨年度は全国で140人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっており、乳児(0歳)の死亡原因の第3位となっています。

- ・ 発症原因はまだ分かっていません。しかし、左にしめす3点に留意すれば、発症率が低下すると研究で明らかになっています。

- ・ 対策強化月間を開始した平成11年度以降、この病気で亡くなる赤ちゃんの人数は半数以下に減少しています。

一般社団法人
日本小児歯科学会